



## show s

---

- [show saml metadata](#) (2 ページ)
- [show scansafe server](#) (3 ページ)
- [show scansafe statistics](#) (5 ページ)
- [show sctp](#) (7 ページ)
- [show service-policy](#) (9 ページ)
- [show shared license](#) (17 ページ)
- [show shun](#) (21 ページ)
- [show sip](#) (22 ページ)
- [show skinny](#) (24 ページ)
- [show sla monitor configuration](#) (26 ページ)
- [show sla monitor operational-state](#) (28 ページ)
- [show snmp-server engineid](#) (30 ページ)
- [show snmp-server group](#) (32 ページ)
- [show snmp-server host](#) (34 ページ)
- [show snmp-server statistics](#) (36 ページ)
- [show snmp-server user](#) (38 ページ)
- [show software authenticity development](#) (40 ページ)
- [show software authenticity file](#) (42 ページ)
- [show software authenticity keys](#) (44 ページ)
- [show software authenticity running](#) (47 ページ)
- [show ssd](#) (49 ページ)
- [show ssh sessions](#) (51 ページ)
- [show ssl](#) (53 ページ)
- [show startup-config](#) (59 ページ)
- [show sunrpc-server active](#) (61 ページ)
- [show switch mac-address-table](#) (63 ページ)
- [show switch vlan](#) (65 ページ)
- [show sw-reset-button](#) (67 ページ)

## show saml metadata

SAML メタデータのトンネル グループ名を表示します。

### show saml metadata tunnel-group-name

#### 構文の説明

SAML メタデータを表示するトンネル グループの名前を入力します。

#### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

#### コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
グローバル コンフィギュレーション	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応

#### コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

9.5(2) このコマンドが追加されました。

#### 使用上のガイドライン

特定のトンネル グループの SAML SP のメタデータを表示します。

#### 例

次に、**show scansafe server** コマンドの出力例を示します。

```
ciscoasa# show saml metadata saml_sso_tunnel_group
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>saml idp</b>	ホワイトリストに記載されたユーザーとグループのインスペクション クラス マップを作成します。

# show scansafe server

クラウド Web セキュリティ プロキシ サーバーのステータスを表示するには、特権 EXEC モードで **show scansafe server** コマンドを使用します。

## show scansafe server

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
グローバル コンフィギュ レーション	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応

### コマンド履歴

リリース 変更内容

9.0(1) このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、サーバーが現在のアクティブサーバー、バックアップサーバー、または到達不能のいずれであるか、サーバーのステータスを表示します。

マルチ コンテキスト モードでは、このコマンドの出力は、ScanSafe サーバーに到達する管理コンテキストの機能によって異なります。管理コンテキストは、定期的にポーリングを試行して、トラフィックが ASA を通過していない場合に ScanSafe サーバーがアップしているかどうかを確認します。ポーリング試行の間隔は設定不可で、15分に固定されています。また、管理コンテキストは、ScanSafe タワーにキープアライブを送信します。

### 例

次に、**show scansafe server** コマンドの出力例を示します。

```
ciscoasa# show scansafe server
ciscoasa# Primary: proxy197.scansafe.net (72.37.244.115) (REACHABLE)*
ciscoasa# Backup: proxy137.scansafe.net (80.254.152.99)
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>class-map type inspect scansafe</b>	ホワイトリストに記載されたユーザーとグループのインスペクションクラス マップを作成します。
<b>default user group</b>	ASA に入ってくるユーザーのアイデンティティを ASA が判別できない場合のデフォルトのユーザー名やグループを指定します。
<b>http[s]</b> (パラメータ)	インスペクション ポリシー マップのサービス タイプ (HTTP または HTTPS) を指定します。
<b>inspect scansafe</b>	このクラスのトラフィックに対するクラウド Web セキュリティ インスペクションをイネーブルにします。
<b>license</b>	要求の送信元の組織を示すため、ASA がクラウド Web セキュリティ プロキシ サーバーに送信する認証キーを設定します。
<b>match user group</b>	ユーザーまたはグループをホワイトリストと照合します。
<b>policy-map type inspect scansafe</b>	インスペクション ポリシー マップを作成すると、ルールのために必要なパラメータを設定し、任意でホワイトリストを識別できます。
<b>retry-count</b>	再試行回数値を入力します。この値は、可用性をチェックするために、クラウド Web セキュリティ プロキシ サーバーをポーリングする前に ASA が待機する時間です。
<b>scansafe</b>	マルチ コンテキスト モードでは、コンテキストごとにクラウド Web セキュリティを許可します。
<b>scansafe general-options</b>	汎用クラウド Web セキュリティ サーバー オプションを設定します。
<b>server {primary   backup}</b>	プライマリまたはバックアップのクラウド Web セキュリティ プロキシ サーバーの完全修飾ドメイン名または IP アドレスを設定します。
<b>show conn scansafe</b>	大文字の Z フラグに示されたようにすべてのクラウド Web セキュリティ 接続を表示します。
<b>show scansafe statistics</b>	合計と現在の http 接続を表示します。
<b>user-identity monitor</b>	AD エージェントから指定したユーザーまたはグループ情報をダウンロードします。
<b>whitelist</b>	トラフィックのクラスでホワイトリスト アクションを実行します。

# show scansafe statistics

クラウド Web セキュリティアクティビティに関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show scansafe statistics** コマンドを使用します。

## show scansafe statistics

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
グローバル コンフィギュ レーション	• 対応	• 対応	• 対応	—	• 対応

### コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

9.0(1) このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

**show scansafe statistics** コマンドは、プロキシサーバーにリダイレクトされる接続数、現在リダイレクトされている接続数、ホワイトリストに記載されている接続数などのクラウド Web セキュリティアクティビティに関する情報を示します。

### 例

次に、**show scansafe statistics** コマンドの出力例を示します。

```
ciscoasa# show scansafe statistics
Current HTTP sessions : 0
Current HTTPS sessions : 0
Total HTTP Sessions : 0
Total HTTPS Sessions : 0
Total Fail HTTP sessions : 0
Total Fail HTTPS sessions : 0
Total Bytes In : 0 Bytes
Total Bytes Out : 0 Bytes
HTTP session Connect Latency in ms(min/max/avg) : 0/0/0
HTTPS session Connect Latency in ms(min/max/avg) : 0/0/0
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>class-map type inspect scansafe</b>	ホワイトリストに記載されたユーザーとグループのインスペクションクラスマップを作成します。
	<b>default user group</b>	ASA に入ってくるユーザーのアイデンティティを ASA が判別できない場合のデフォルトのユーザー名やグループを指定します。
	<b>http[s]</b> (パラメータ)	インスペクションポリシーマップのサービスタイプ (HTTP または HTTPS) を指定します。
	<b>inspect scansafe</b>	このクラスのトラフィックに対するクラウド Web セキュリティインスペクションをイネーブルにします。
	<b>license</b>	要求の送信元の組織を示すため、ASA がクラウド Web セキュリティプロキシサーバーに送信する認証キーを設定します。
	<b>match user group</b>	ユーザーまたはグループをホワイトリストと照合します。
	<b>policy-map type inspect scansafe</b>	インスペクションポリシーマップを作成すると、ルールのために必要なパラメータを設定し、任意でホワイトリストを識別できます。
	<b>retry-count</b>	再試行回数値を入力します。この値は、可用性をチェックするために、クラウド Web セキュリティプロキシサーバーをポーリングする前に ASA が待機する時間です。
	<b>scansafe</b>	マルチ コンテキスト モードでは、コンテキストごとにクラウド Web セキュリティを許可します。
	<b>scansafe general-options</b>	汎用クラウド Web セキュリティ サーバー オプションを設定します。
	<b>server {primary   backup}</b>	プライマリまたはバックアップのクラウド Web セキュリティプロキシサーバーの完全修飾ドメイン名または IP アドレスを設定します。
	<b>show conn scansafe</b>	大文字の Z フラグに示されたようにすべてのクラウド Web セキュリティ接続を表示します。
	<b>show scansafe server</b>	サーバーが現在のアクティブサーバー、バックアップサーバー、または到達不能のいずれであるか、サーバーのステータスを表示します。
	<b>user-identity monitor</b>	AD エージェントから指定したユーザーまたはグループ情報をダウンロードします。
	<b>whitelist</b>	トラフィックのクラスでホワイトリストアクションを実行します。

# show sctp

現在の Stream Control Transmission Protocol (SCTP) Cookie とアソシエーションを表示するには、特権 EXEC モードで **show sctp** コマンドを使用します。

## show sctp [ detail ]

### 構文の説明

**detail** SCTP アソシエーションに関する詳細情報を表示します。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

### コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

9.5(2) このコマンドが追加されました。

9.7(1) 詳細な出力に、マルチホーミング、複数のストリーム、およびフレームリアセンブルに関する情報が含まれるようになりました。

### 使用上のガイドライン

**show sctp** コマンドは、SCTP Cookie とアソシエーションに関する情報を表示します。

### 例

次に、**show sctp** コマンドの出力例を示します。

```
ciscoasa# show sctp

AssocID: 2279da7a
Local: 192.168.107.11/20001 (ESTABLISHED)
Remote: 192.168.108.11/40174 (ESTABLISHED)
AssocID: 4924f520
Local: 192.168.107.11/20001 (ESTABLISHED)
Remote: 192.168.108.11/40200 (ESTABLISHED)
```

次に、**show sctp detail** コマンドの出力例を示します。

```
ciscoasa(config)# show sctp detail

AssocID: 8b7e3ffb
```

```

Local: 192.168.100.56/3868 (ESTABLISHED)
Receiver Window: 48000
Cumulative TSN: 5cb6cd9b
Next TSN: 5cb6cd9c
Earliest Outstanding TSN: 5cb6cd9c
Out-of-Order Packet Count: 0
Remote: 192.168.200.78/3868 (ESTABLISHED)
Receiver Window: 114688
Cumulative TSN: 5cb6cd98
Next TSN: 0
Earliest Outstanding TSN: 5cb6cd9c
Out-of-Order Packet Count: 0

```

9.7(1) から、詳細な出力に、マルチホーミング、複数のストリームおよびフレーム リアセンブルに関する情報が含まれるようになりました。

```
asa2005# show sctp detail
```

```

AssocID: 2e590263
Local: 10.0.103.250/50000 (ESTABLISHED)
Multi-homing IP's: 10.0.103.251(10.0.103.251)
Receiver Window: 106496
Cumulative TSN: bf0a3180
Next TSN: 0
Earliest Outstanding TSN: 0
Re-ordering queue:
Stream ID 3: next SN 10, first/last queued SN 11/16, hole SN:
Stream ID 4: next SN 10, first/last queued SN 11/16, hole SN:
Remote: 10.0.102.250/3868 (CLOSED)
Multi-homing IP's: 10.0.102.251(10.0.102.251)
Receiver Window: 106496
Cumulative TSN: 915d5916
Next TSN: 0
Earliest Outstanding TSN: 0
Re-ordering queue:
Secondary Conn List:
10.0.102.251(10.0.102.251):3868 to 10.0.103.251(10.0.103.251):50000
10.0.103.251(10.0.103.251):50000 to 10.0.102.251(10.0.102.251):3868
10.0.102.250(10.0.102.250):3868 to 10.0.103.251(10.0.103.251):50000
10.0.103.251(10.0.103.251):50000 to 10.0.102.250(10.0.102.250):3868
10.0.102.251(10.0.102.251):3868 to 10.0.103.250(10.0.103.250):50000
10.0.103.250(10.0.103.250):50000 to 10.0.102.251(10.0.102.251):3868

```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show local-host</b>	インターフェイスごとに、ASA 経由で接続を確立しているホストの情報を表示します。
<b>show service-policy inspect sctp</b>	SCTP インспекションの統計情報を表示します。
<b>show traffic</b>	インターフェイスごとに、接続とインспекションの統計情報を表示します。

# show service-policy

サービスポリシー統計情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show service-policy** コマンドを使用します。

```
show service-policy [ global | interface intf ] [ csc | cxsc | inspect inspection [ arguments ] | ips |
police | priority | set connection [ details ] | sfr | shape | user-statistics ]
show service-policy [ global | interface intf ] [ flow protocol { host src_host / src_ip src_mask } [
eq src_port ] { host dest_host / dest_ip dest_mask } [ eq dest_port ] [ icmp_number |
icmp_control_message ] ]
```

## 構文の説明

<b>csc</b>	(任意) <b>csc</b> コマンドを含むポリシーに関する詳細情報を表示します。
<b>cxsc</b>	(任意) <b>cxsc</b> コマンドを含むポリシーに関する詳細情報を表示します。
<i>dest_ip dest_mask</i>	<b>flow</b> キーワードの場合、宛先 IP アドレスおよびトラフィックフローのネットマスク。
<b>details</b>	(任意) <b>set connection</b> キーワードの場合、クライアントごとの接続制限が有効な場合に、クライアントごとの接続情報を表示します。
<b>eq dest_port</b>	(任意) <b>flow</b> キーワードの場合、フローの宛先ポートに相当します。
<b>eq src_port</b>	(任意) <b>flow</b> キーワードの場合、フローの送信元ポートに相当します。
<b>flow protocol</b>	<p>(オプション) 5つのタプル (プロトコル、送信元 IP アドレス、送信元ポート、宛先 IP アドレス、宛先ポート) で識別される特定フローに一致するポリシーを示します。このコマンドを利用すると、サービスポリシー コンフィギュレーションによって、必要なサービスが特定の接続に提供されることを確認できます。</p> <p>フローが5つのタプルとして示されるため、すべてのポリシーがサポートされるわけではありません。次のサポート対象ポリシーが一致します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>match access-list</b></li> <li>• <b>match port</b></li> <li>• <b>match rtp</b></li> <li>• <b>match default-inspection-traffic</b></li> </ul>
<b>global</b>	(オプション) 出力をグローバル ポリシーに制限します。
<b>host dest_host</b>	<b>flow</b> キーワードの場合、トラフィックフローのホスト宛先 IP アドレス。

<b>host</b> <i>src_host</i>	<b>flow</b> キーワードの場合、トラフィックフローのホスト送信元IPアドレス。
<i>icmp_control_message</i>	(任意) プロトコルとして ICMP を指定した場合の <b>flow</b> キーワードに対して、トラフィックフローの ICMP 制御メッセージを指定します。
<i>icmp_number</i>	(任意) プロトコルとして ICMP を指定した場合の <b>flow</b> キーワードに対して、トラフィックフローの ICMP プロトコル番号を指定します。
<b>inspect</b> <i>inspection</i> [ <i>arguments</i> ]	(任意) <b>inspect</b> コマンドを含むポリシーに関する詳細情報を表示します。詳細出力では、一部の <b>inspect</b> コマンドはサポートされません。すべてのインスペクションを表示するには、引数を使用せずに <b>show service-policy</b> コマンドを使用します。各インスペクションで使用できる引数は異なります。詳細については、CLI ヘルプを参照してください。
<b>interface</b> <i>intf</i>	(任意) <i>intf</i> 引数で指定したインターフェイスに適用されるポリシーを表示します。 <i>intf</i> は <b>nameif</b> コマンドで定義したインターフェイス名です。
<b>ips</b>	(任意) <b>ips</b> コマンドを含むポリシーに関する詳細情報を表示します。
<b>police</b>	(任意) <b>police</b> コマンドを含むポリシーに関する詳細情報を表示します。
<b>priority</b>	(任意) <b>priority</b> コマンドを含むポリシーに関する詳細情報を表示します。
<b>set connection</b>	(任意) <b>set connection</b> コマンドを含むポリシーに関する詳細情報を表示します。
<b>sfr</b>	(任意) <b>sfr</b> コマンドを含むポリシーに関する詳細情報を表示します。
<b>shape</b>	(任意) <b>shape</b> コマンドを含むポリシーに関する詳細情報を表示します。
<i>src_ip src_mask</i>	<b>flow</b> キーワードの場合、送信元 IP アドレスおよびトラフィックフローで使用されるネットマスク。
<b>user-statistics</b>	(任意) <b>user-statistics</b> コマンドを含むポリシーに関する詳細情報を表示します。このコマンドは、アイデンティティファイアウォールに関するユーザー統計情報を表示します。これには、選択したユーザーの、送信パケット数、送信ドロップ数、受信パケット数および送信ドロップ数が含まれます。

## コマンド デフォルト

引数を指定しない場合、このコマンドはすべてのグローバルポリシーおよびインターフェイスポリシーを表示します。

## コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

## コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが追加されました。
7.1(1)	<b>csc</b> キーワードが追加されました。
7.2(4)/8.0(4)	<b>shape</b> キーワードが追加されました。
8.4(2)	アイデンティティ ファイアウォール用の <b>user-statistics</b> キーワードのサポートが追加されました。
8.4(4.1)	ASA CX モジュール用の <b>cxsc</b> キーワードのサポートが追加されました。
9.2(1)	ASA FirePOWER モジュール用の <b>sfr</b> キーワードのサポートが追加されました。
9.5(2)	<b>inspect sctp</b> および <b>inspect diameter</b> キーワードが追加されました。
9.6(2)	<b>inspect stun</b> および <b>inspect m3ua { drops   endpoint ip_address }</b> キーワードが追加されました。
9.7(1)	<b>inspect m3ua session</b> および <b>inspect gtp pdpmcb teid teid</b> キーワードが追加されました。また、表示ルールの制限がクラス マップあたり 64 から 128 に引き上げられました。
9.10(1)	<b>dns</b> を検査する <b>detail</b> キーワードが追加されました。Cisco Umbrella に関する詳細が提供されます。

## 使用上のガイドライン

**show service-policy** コマンドの出力に表示される初期接続の数は、**class-map** コマンドによって定義されたトラフィックマッチングに一致するインターフェイスへの、初期接続の数を示しています。「embryonic-conn-max」フィールドには、モジュラポリシーフレームワークを使用するトラフィッククラスに設定された最大初期接続の制限値が表示されます。表示される現在の初期接続数が最大値と等しい場合、または最大値を超えている場合は、新しい TCP 接続が **class-map** コマンドによって定義されたトラフィックタイプに一致すると、その接続に対して TCP 代行受信が適用されます。

コンフィギュレーションに対してサービスポリシーの変更を加えた場合は、すべての新しい接続で新しいサービスポリシーが使用されます。既存の接続は、接続の確立時に設定されたポリシーを引き続き使用します。**show** コマンド出力には古い接続に関するデータは含まれません。たとえば、インターフェイスから QoS サービスポリシーを削除し、変更したバージョン

を再度追加した場合、**show service-policy** コマンドには、新しいサービスポリシーに一致する新しい接続に関連付けられた QoS カウンタだけが表示されます。古いポリシーの既存の接続はコマンド出力には表示されなくなります。すべての接続が新しいポリシーを確実に使用するように、現在の接続を解除し、新しいポリシーを使用して再度接続できるようにします。**clear conn** コマンドまたは **clear local-host** コマンドを参照してください。



(注) **inspect icmp** ポリシーと **inspect icmp error** ポリシーの場合、パケット数にはエコー要求パケットと応答パケットのみが含まれます。

例

次に、**show service-policy global** コマンドの出力例を示します。

```
ciscoasa# show service-policy global
Global policy:
  Service-policy: inbound_policy
  Class-map: ftp-port
    Inspect: ftp strict inbound_ftp, packet 0, drop 0, reset-drop 0
```

次に、**show service-policy priority** コマンドの出力例を示します。

```
ciscoasa# show service-policy priority
Interface outside:
Global policy:
  Service-policy: sa_global_fw_policy
Interface outside:
  Service-policy: ramap
  Class-map: clientmap
  Priority:
    Interface outside: aggregate drop 0, aggregate transmit 5207048
  Class-map: udpmap
  Priority:
    Interface outside: aggregate drop 0, aggregate transmit 5207048
  Class-map: cmap
```

次に、**show service-policy flow** コマンドの出力例を示します。

```
ciscoasa# show service-policy flow udp host 209.165.200.229 host 209.165.202.158 eq 5060
Global policy:
  Service-policy: fl_global_fw_policy
  Class-map: inspection_default
  Match: default-inspection-traffic
  Action:
    Input flow: inspect sip
Interface outside:
  Service-policy: test
  Class-map: test
  Match: access-list test
  Access rule: permit ip 209.165.200.229 255.255.255.224 209.165.202.158
255.255.255.224
  Action:
    Input flow: ids inline
    Input flow: set connection conn-max 10 embryonic-conn-max 20
```

次に、**show service-policy inspect http** コマンドの出力例を示します。この例では、**match-any** クラス マップ内の **match** コマンドごとに統計情報が表示されます。

```
ciscoasa# show service-policy inspect http
Global policy:
  Service-policy: global_policy
  Class-map: inspection_default
    Inspect: http http, packet 1916, drop 0, reset-drop 0
      protocol violations
      packet 0
    class http_any (match-any)
      Match: request method get, 638 packets
      Match: request method put, 10 packets
      Match: request method post, 0 packets
      Match: request method connect, 0 packets
      log, packet 648
```

複数のCPUコアを搭載しているデバイスの場合は、ロック失敗用のカウンタがあります。共有されるデータ構造と変数は複数のコアによって使用可能なため、それらを保護するためにロックメカニズムが使用されます。コアはロックの取得に失敗すると、ロックの取得を再試行します。ロック失敗カウンタは、試行が失敗するごとに増分されます。

```
ciscoasa# show service-policy
Global policy:
  Service-policy: global_policy
  Class-map: inspection_default
  ...
  Inspect: esmtp _default_esmtp_map, packet 96716502, lock fail 7, drop 25,
  reset-drop 0
  Inspect: sqlnet, packet 2526511491, lock fail 21, drop 2362, reset-drop 0
```

次に、**show service-policy inspect waas** コマンドの出力例を示します。この例では、**waas** の統計情報が表示されます。

```
ciscoasa# show service-policy inspect waas
Global policy:
  Service-policy: global_policy
  Class-map: WAAS
    Inspect: waas, packet 12, drop 0, reset-drop 0
  SYN with WAAS option 4
  SYN-ACK with WAAS option 4
  Confirmed WAAS connections 4
  Invalid ACKs seen on WAAS connections 0
  Data exceeding window size on WAAS connections 0
```

次に、GTP インスペクションの統計情報を表示するコマンドを示します。出力については、[表 12-1](#) で説明されています。

```
firewall(config)# show service-policy inspect gtp statistics

GPRS GTP Statistics:
  version_not_support          0      msg_too_short          0
  unknown_msg                  0      unexpected_sig_msg     0
  unexpected_data_msg          0      ie_duplicated          0
  mandatory_ie_missing         0      mandatory_ie_incorrect 0
  optional_ie_incorrect        0      ie_unknown             0
  ie_out_of_order              0      ie_unexpected          0
  total_forwarded              67     total_dropped          1
  signalling_msg_dropped       1      data_msg_dropped       0
  signalling_msg_forwarded     67     data_msg_forwarded     0
```

```

total created_pdp          33      total deleted_pdp          32
total created_pdpmcb      31      total deleted_pdpmcb      30
total dup_sig_mcbinfo     0       total dup_data_mcbinfo    0
no_new_sgw_sig_mcbinfo    0       no_new_sgw_data_mcbinfo   0
pdp_non_existent          1

```

表 1: GPRS GTP 統計情報

カラムのヘッダー	説明
version_not_support	サポートされていない GTP バージョンフィールドを持つパケットの数を表示します。
msg_too_short	長さが 8 バイトより短いパケットの数を表示します。
unknown_msg	不明なタイプのメッセージ数を表示します。
unexpected_sig_msg	予期しないシグナリング メッセージ数を表示します。
unexpected_data_msg	予期しないデータ メッセージ数を表示します。
mandatory_ie_missing	必須情報要素 (IE) が欠落しているメッセージ数を表示します。
mandatory_ie_incorrect	不正な形式の必須情報要素 (IE) を持つメッセージ数を表示します。
optional_ie_incorrect	無効なオプション情報要素 (IE) を持つメッセージ数を表示します。
ie_unknown	不明な情報要素 (IE) を持つメッセージ数を表示します。
ie_out_of_order	順番どおりでない情報要素 (IE) を持つメッセージ数を表示します。
ie_unexpected	予期しない情報要素 (IE) を持つメッセージを表示します。
ie_duplicated	重複した情報要素 (IE) を持つメッセージ数を表示します。
optional_ie_incorrect	不正な形式のオプション情報要素 (IE) を持つメッセージ数を表示します。
total_dropped	ドロップされたメッセージの合計数を表示します。
signalling_msg_dropped	ドロップされた信号メッセージ数を表示します。
data_msg_dropped	ドロップされたデータ メッセージ数を表示します。
total_forwarded	転送されたメッセージの合計数を表示します。
signalling_msg_forwarded	転送された信号メッセージ数を表示します。
data_msg_forwarded	転送されたデータ メッセージ数を表示します。

カラムのヘッダー	説明
total created_pdp	作成されたパケットデータプロトコル (PDP) またはベアラー コンテキストの合計数を表示します。
total deleted_pdp	削除されたパケットデータプロトコル (PDP) またはベアラー コンテキストの合計数を表示します。
total created_pdpmcb total deleted_pdpmcb total dup_sig_mcbinfo total dup_data_mcbinfo no_new_sgw_sig_mcbinfo no_new_sgw_data_mcbinfo	これらのフィールドは、実装機能である PDP マスター制御ブロックの使用に関連しています。これらのカウンタは、トラブルシューティング向けにシスコテクニカルサポートによって使用され、エンドユーザーには直接の関係はありません。
pdp_non_existent	存在しない PDP コンテキストに対して受信したメッセージ数を表示します。

## 例

次に、PDP コンテキストに関する情報を表示するコマンドを示します。

```
ciscoasa# show service-policy inspect gtp pdp-context
1 in use, 32 most used
Version TID                               MS Addr           SGSN Addr         Idle           Timeout         APN
v2      2692026893437055 10.0.0.1          10.0.0.11        0:00:11       0:04:00       gprs.example.com
```

ASA 9.6.2 以降、GTP PDP コンテキスト情報はテーブルではなく、1 行ずつ示されます。このため、IPv6 アドレスの使用時に、情報が読み取り易くなります。

```
ciscoasa# show service-policy inspect gtp pdp-context
4 in use, 5 most used
Version v1,   TID 050542012151705f,  MS Addr 2005:a00::250:56ff:fe96:eec,
SGSN Addr 10.0.203.22,   Idle 0:52:01,   Timeout 3:00:00,   APN ssenoauth146
Version v2,   TID 0505420121517056,  MS Addr 100.100.100.102,
SGW Addr 10.0.203.24,   Idle 0:00:05,   Timeout 3:00:00,   APN ssenoauth146
Version v2,   TID 0505420121517057,  MS Addr 100.100.100.103,
SGW Addr 10.0.203.25,   Idle 0:00:04,   Timeout 3:00:00,   APN ssenoauth146
Version v2,   TID 0505420121517055,  MS Addr 100.100.100.101,
SGW Addr 10.0.203.23,   Idle 0:00:06,   Timeout 3:00:00,   APN ssenoauth146
```

表 12-2 で、`show service-policy inspect gtp pdp-context` コマンドの出力について説明します。

表 2: PDP コンテキスト

カラムのヘッダー	説明
バージョン	GTP のバージョンを表示します。
TID	トンネル識別子を表示します。

カラムのヘッダー	説明
MS Addr	モバイル ステーションのアドレスを表示します。
SGSN Addr SGW Addr	サービングゲートウェイサービスノード (SGSN) またはサービングゲートウェイ (SGW) を表示します。
Idle	PDP またはベアラークontextが使用されていない期間を表示します。
APN	アクセス ポイント名を表示します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>clear configure service-policy</b>	サービス ポリシーのコンフィギュレーションをクリアします。
<b>clear service-policy</b>	すべてのサービスポリシーコンフィギュレーションをクリアします。
<b>service-policy</b>	サービス ポリシーを設定します。
<b>show running-config service-policy</b>	実行コンフィギュレーションに設定されているサービスポリシーを表示します。

# show shared license

共有ライセンス統計情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show shared license** コマンドを使用します。オプションのキーワードはライセンス サーバーのみで使用できます。

**show shared license** [ **detail** | **client** [ *hostname* ] | **backup** ]

## 構文の説明

**backup** (任意) バックアップ サーバーに関する情報を表示します。

**client** (任意) 参加ユニットの情報だけを表示します。

**detail** (任意) 参加ユニットごとの統計情報を含む、すべての統計情報を表示します。

*hostname* (任意) 特定の参加ユニットの情報だけを表示します。

## コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	• 対応	—	• 対応	—	—

## コマンド履歴

リリース 変更内容

8.2(1) このコマンドが追加されました。

9.0(1) マルチコンテキストモードのサポートが追加されました。

## 使用上のガイドライン

統計情報をクリアするには、**clear shared license** コマンドを入力します。

## 例

次に、ライセンス参加ユニットでの **show shared license** コマンドの出力例を示します。

```
ciscoasa# show shared license
Primary License Server : 10.3.32.20
  Version              : 1
  Status               : Inactive
Shared license utilization:
  SSLVPN:
    Total for network  :    5000
    Available         :    5000
    Utilized          :         0
This device:
```

```

Platform limit      :      250
Current usage      :          0
High usage         :          0
Messages Tx/Rx/Error:
Registration       : 0 / 0 / 0
Get               : 0 / 0 / 0
Release           : 0 / 0 / 0
Transfer          : 0 / 0 / 0
Client ID         : Usage      Hostname
ASA0926K04D      : 0          5510-B

```

表 12-3 で、**show shared license** コマンドの出力について説明します。

表 3: **show shared license** の説明

フィールド	説明
Primary License Server	プライマリ サーバーの IP アドレス。
Version	共有ライセンスのバージョン。
Status (ステータス)	<p>コマンドがバックアップサーバーで発行された場合、「Active」はこのデバイスがプライマリ共有ライセンスサーバーとしての役割を果たしていることを意味します。「Inactive」は、デバイスがスタンバイ モードで待機しており、デバイスはプライマリサーバーと通信していることを意味します。</p> <p>フェールオーバーライセンスがプライマリサーバーで設定されると、バックアップサーバーは、フェールオーバー中、瞬間的に「Active」になりますが、通信の同期が再び完了すると「Inactive」に戻ります。</p>
Shared license utilization	
SSLVPN	
Total for network	使用可能な共有セッションの合計数が表示されます。
Available	使用できる残りの共有セッションを表示します。
Utilized	アクティブなライセンスサーバーに対して取得された共有セッション数を表示します。
This device	
Platform limit	インストールされているライセンスに応じて、デバイスの SSL VPN セッションの合計数を表示します。
現在の使用状況	現在このデバイスが所有する、共有プールからの共有 SSL VPN セッション数を表示します。
High usage	このデバイスが所有した共有 SSL VPN セッションの最大数を表示します。

フィールド	説明
Messages Tx/Rx/Error	
RegistrationGetReleaseTransfer	各接続タイプの送信、受信およびエラーのメッセージ数を示します。
Client ID	一意のクライアント ID。
使用法	使用中のセッション数を表示します。
Hostname	このデバイスのホスト名を表示します。

## 例

次に、ライセンスサーバー上での **show shared license detail** コマンドの出力例を示します。

```
ciscoasa# show shared license detail
Backup License Server Info:
Device ID       : ABCD
Address         : 10.1.1.2
Registered      : NO
HA peer ID     : EFGH
Registered      : NO
  Messages Tx/Rx/Error:
    Hello       : 0 / 0 / 0
    Sync        : 0 / 0 / 0
    Update      : 0 / 0 / 0
Shared license utilization:
SSLVPN:
  Total for network :    500
  Available         :    500
  Utilized          :     0
This device:
  Platform limit   :    250
  Current usage    :     0
  High usage       :     0
  Messages Tx/Rx/Error:
    Registration   : 0 / 0 / 0
    Get            : 0 / 0 / 0
    Release        : 0 / 0 / 0
    Transfer       : 0 / 0 / 0
Client Info:
  Hostname        : 5540-A
  Device ID       : XXXXXXXXXXXX
SSLVPN:
  Current usage   : 0
  High            : 0
  Messages Tx/Rx/Error:
    Registration   : 1 / 1 / 0
    Get            : 0 / 0 / 0
    Release        : 0 / 0 / 0
    Transfer       : 0 / 0 / 0
...
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>activation-key</b>	ライセンス アクティベーション キーを入力します。
<b>clear configure license-server</b>	共有ライセンス サーバー コンフィギュレーションをクリアします。
clear shared license	共有ライセンス統計情報をクリアします。
<b>license-server address</b>	共有ライセンス サーバーの IP アドレスと参加者の共有秘密を指定します。
<b>license-server backup address</b>	参加者の共有ライセンス バックアップ サーバーを指定します。
<b>license-server backup backup-id</b>	メインの共有ライセンスサーバーのバックアップサーバーの IP アドレスおよびシリアル番号を指定します。
<b>license-server backup enable</b>	共有ライセンス バックアップ サーバーになるユニットをイネーブルにします。
<b>license-server enable</b>	共有ライセンス サーバーになるユニットをイネーブルにします。
<b>license-server port</b>	サーバーが参加者からの SSL 接続をリッスンするポートを設定します。
<b>license-server refresh-interval</b>	サーバーと通信する頻度を設定するために参加者に提供される更新間隔を設定します。
license-server secret	共有秘密を共有ライセンス サーバーに設定します。
<b>show activation-key</b>	インストールされている現在のライセンスを表示します。
<b>show running-config license-server</b>	共有ライセンス サーバー コンフィギュレーションを表示します。
<b>show vpn-sessiondb</b>	VPN セッションのライセンス情報を表示します。

# show shun

shun 情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show shun** コマンドを使用します。

**show shun** [ *src\_ip* / *statistics* ]

## 構文の説明

*src\_ip* (任意) このアドレスに関する情報を表示します。

*statistics* (任意) インターフェイスのカウンタだけを表示します。

## コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

## コマンド履歴

リリース 変更内容

7.0(1) このコマンドが追加されました。

8.2(2) 脅威イベントについては、シビラティ（重大度）レベルが警告から通知に変更されました。脅威イベントは5分ごとにトリガーできます。

## 例

次に、**show shun** コマンドの出力例を示します。

```
ciscoasa# show shun
shun (outside) 10.1.1.27 10.2.2.89 555 666 6
shun (inside1) 10.1.1.27 10.2.2.89 555 666 6
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>clear shun</b>	現在イネーブルにされている回避をすべてディセーブルにし、回避統計をクリアします。
<b>shun</b>	新規接続を抑制し、既存のすべての接続からのパケットを不許可にすることにより、攻撃元ホストへのダイナミック応答をイネーブルにします。

# show sip

SIPセッションを表示するには、特権 EXEC モードで **sip** コマンドを使用します。

## show sip

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応

### コマンド履歴

リリー 変更内容  
ス

7.0(1) このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン **show sip** コマンドは、ASA を越えて確立されている SIP セッションの情報を表示します。



(注) **pager** コマンドを設定してから **show sip** コマンドを使用することを推奨します。多数の SIP セッションレコードが存在する場合に **pager** コマンドが設定されていないと、**show sip** コマンドが最後まで出力されるまでに時間がかかります。

### 例

次に、**show sip** コマンドの出力例を示します。

```
ciscoasa# show sip
Total: 2
call-id c3943000-960ca-2e43-228f@10.130.56.44
| state Call init, idle 0:00:01
call-id c3943000-860ca-7e1f-11f7@10.130.56.45
| state Active, idle 0:00:06
```

この例では、ASA 上の 2 つのアクティブな SIP セッションが表示されています (Total フィールドを参照)。各 call-id が 1 つのコールを表します。

最初のセッションは call-id c3943000-960ca-2e43-228f@10.130.56.44 で、Call Init 状態にあります。これは、このセッションがまだコール設定中であることを示しています。

コール設定が完了するのは、ACK が確認されてからです。このセッションは、1 秒間アイドル状態でした。

2 番目のセッションは **Active** 状態です。この状態ではコール設定が完了し、エンドポイントがメディアを交換しています。このセッションは、6 秒間アイドル状態でした。

---

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>inspect sip</b>	SIP アプリケーション インспекションをイネーブルにします。
<b>show conn</b>	さまざまな接続タイプの接続状態を表示します。
<b>timeout</b>	さまざまなプロトコルおよびセッション タイプのアイドル状態の最大継続時間を設定します。

## show skinny

SCCP (Skinny) インспекションエンジンの問題をトラブルシューティングするには、特権 EXEC モードで `show skinny` コマンドを使用します。

### show skinny

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

#### コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

#### コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

7.0(1) このコマンドが追加されました。

#### 使用上のガイドライン

`show skinny` コマンドは、SCCP (Skinny) セッションに関する情報を表示します。

#### 例

次に、次の条件における `show skinny` コマンドの出力例を示します。ASA を越えて 2 つのアクティブな Skinny セッションがセットアップされています。最初の Skinny セッションは、ローカルアドレス 10.0.0.11 にある内部 Cisco IP Phone と 172.18.1.33 にある外部 Cisco CallManager の間に確立されています。TCP ポート 2000 は、CallManager です。2 番目の Skinny セッションは、ローカルアドレス 10.0.0.22 にある別の内部 Cisco IP Phone と同じ Cisco CallManager の間に確立されています。

```
ciscoasa# show skinny
MEDIA 10.0.0.22/20798          172.18.1.11/22948
LOCAL          FOREIGN          STATE
-----
1      10.0.0.11/52238          172.18.1.33/2000          1
   MEDIA 10.0.0.11/22948          172.18.1.22/20798
2      10.0.0.22/52232          172.18.1.33/2000          1
   MEDIA 10.0.0.22/20798          172.18.1.11/22948
```

この出力から、両方の内部 Cisco IP Phone の間でコールが確立されていることがわかります。最初と 2 番目の電話機の RTP リスンポートは、それぞれ UDP 22948 と 20798 です。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>inspect skinny</b>	SCCP アプリケーション インспекションをイネーブルにします。
<b>show conn</b>	さまざまな接続タイプの接続状態を表示します。
<b>timeout</b>	さまざまなプロトコルおよびセッションタイプのアイドル状態の最大継続時間を設定します。

# show sla monitor configuration

デフォルトを含む、SLA 動作のコンフィギュレーション値を表示するには、ユーザー EXEC モードで **show sla monitor configuration** コマンドを使用します。

**show sla monitor configuration** [ *sla-id* ]

## 構文の説明

*sla-id* (任意) SLA 動作の ID 番号。有効な値は 1 ~ 2147483647 です。

## コマンド デフォルト

*sla-id* が指定されていない場合は、すべての SLA 動作のコンフィギュレーション値が表示されます。

## コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
ユーザー EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

## コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

7.2(1) このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**show running config sla monitor** コマンドを使用して、実行コンフィギュレーションの SLA 動作コマンドを確認します。

## 例

次に、**show sla monitor** コマンドの出力例を示します。SLA 動作 123 のコンフィギュレーション値が表示されます。**show sla monitor** コマンドの出力に続いて、同じ SLA 動作の **show running-config sla monitor** コマンドの出力が表示されます。

```
ciscoasa> show sla monitor 124
SA Agent, Infrastructure Engine-II
Entry number: 124
Owner:
Tag:
Type of operation to perform: echo
Target address: 10.1.1.1
Interface: outside
Number of packets: 1
Request size (ARR data portion): 28
Operation timeout (milliseconds): 1000
Type Of Service parameters: 0x0
Verify data: No
```

```

Operation frequency (seconds): 3
Next Scheduled Start Time: Start Time already passed
Group Scheduled : FALSE
Life (seconds): Forever
Entry Ageout (seconds): never
Recurring (Starting Everyday): FALSE
Status of entry (SNMP RowStatus): Active
Enhanced History:
ciscoasa# show running-config sla monitor 124
sla monitor 124
  type echo protocol ipIcmpEcho 10.1.1.1 interface outside
  timeout 1000
  frequency 3
sla monitor schedule 124 life forever start-time now

```

---

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>show running-config sla monitor</b>	実行コンフィギュレーションの SLA 動作コンフィギュレーション コマンドを表示します。
<b>sla monitor</b>	SLA モニタリング動作を定義します。

## show sla monitor operational-state

SLA 動作の動作状態を表示するには、ユーザー EXEC モードで **show sla monitor operational-state** コマンドを使用します。

**show sla monitor operational-state** [ *sla-id* ]

### 構文の説明

*sla-id* (任意) SLA 動作の ID 番号。有効な値は 1 ~ 2147483647 です。

### コマンド デフォルト

*sla-id* が指定されていない場合は、すべての SLA 動作の統計情報が表示されます。

### コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
ユーザー EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

### コマンド履歴

リリー 変更内容  
ス

7.2(1) このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

実行コンフィギュレーションの SLA 動作コマンドを表示するには、**show running-config sla monitor** コマンドを使用します。

### 例

次に、**show sla monitor operational-state** コマンドの出力例を示します。

```
ciscoasa> show sla monitor operationl-state
Entry number: 124
Modification time: 14:42:23.607 EST Wed Mar 22 2006
Number of Octets Used by this Entry: 1480
Number of operations attempted: 4043
Number of operations skipped: 0
Current seconds left in Life: Forever
Operational state of entry: Active
Last time this entry was reset: Never
Connection loss occurred: FALSE
Timeout occurred: TRUE
Over thresholds occurred: FALSE
Latest RTT (milliseconds): NoConnection/Busy/Timeout
Latest operation start time: 18:04:26.609 EST Wed Mar 22 2006
Latest operation return code: Timeout
RTT Values:
```

```
RTTAvg: 0      RTTMin: 0      RTTMax: 0
NumOfRTT: 0    RTTSum: 0      RTTSum2: 0
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show running-config sla monitor</b>	実行コンフィギュレーションの SLA 動作コンフィギュレーション コマンドを表示します。
<b>sla monitor</b>	SLA モニタリング動作を定義します。

## show snmp-server engineid

ASA 上で設定されている SNMP エンジンの ID を表示するには、特権 EXEC モードで **show snmp-server engineid** コマンドを使用します。

### show snmp-server engineid

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

#### コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

#### コマンド履歴

リリー 変更内容  
ス

8.2(1) このコマンドが追加されました。

#### 例

次に、**show snmp-server engineid** コマンドの出力例を示します。

```
ciscoasa
#
show snmp-server engineid
Local SNMP engineID: 80000009fe85f8fd882920834a3af7e4ca79a0a1220fe10685
```

#### 使用上のガイドライン

SNMP エンジンには、ローカルデバイス上に配置できる SNMP のコピーです。エンジン ID は、各 ASA コンテキストの SNMP エージェントごとに割り当てられる固有の値です。ASA ではエンジン ID を設定できません。エンジン ID の長さは 25 バイトで、この ID は暗号化されたパスワードの生成に使用されます。暗号化されたパスワードはフラッシュメモリに保存されます。エンジン ID はキャッシュすることができます。フェールオーバーペアでは、エンジン ID がピアと同期化されます。

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>clear configure snmp-server</b>	SNMP サーバー コンフィギュレーションをクリアします。
<b>show running-config snmp-server</b>	SNMP サーバー コンフィギュレーションを表示します。

コマンド	説明
snmp-server	SNMP サーバーを設定します。

## show snmp-server group

設定済みの SNMP グループの名前、使用するセキュリティモデル、さまざまなビューのステータス、および各グループのストレージタイプを表示するには、特権 EXEC モードで **show snmp-server group** コマンドを使用します。

### show snmp-server group

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

#### コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

#### コマンド履歴

リリー 変更内容  
ス

8.2(1) このコマンドが追加されました。

#### 例

次に、**show snmp-server group** コマンドの出力例を示します。

```
ciscoasa
#
show snmp-server group
groupname: public                security model:v1
readview : <no readview specified> writeview: <no writeview specified>
notifyview: <no readview specified>
row status: active
groupname: public                security model:v2c
readview : <no readview specified> writeview: <no writeview specified>
notifyview: *<no readview specified>
row status: active
groupname: privgroup             security model:v3 priv
readview : def_read_view         writeview: <no writeview specified>
notifyview: def_notify_view
row status: active
```

#### 使用上のガイドライン

SNMP ユーザーおよび SNMP グループは、SNMP の View-based Access Control Model (VACM) に従って使用されます。使用されるセキュリティモデルは、SNMP グループによって決まります。

す。SNMPユーザーは、SNMPグループのセキュリティモデルに一致する必要があります。各SNMPグループ名とセキュリティレベルのペアは一意である必要があります。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>clear configure snmp-server</b>	SNMP サーバー コンフィギュレーションをクリアします。
<b>show running-config snmp-server</b>	SNMP サーバー コンフィギュレーションを表示します。
<b>snmp-server</b>	SNMP サーバーを設定します。

## show snmp-server host

ホストグループに属する設定済みの SNMP ホストの名前、使用されているインターフェイスおよび使用されている SNMP のバージョンを表示するには、特権 EXEC モードで **show snmp-server host** コマンドを使用します。

### show snmp-server host

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

#### コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

#### コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

8.2(1) このコマンドが追加されました。

9.4(1) 出力は、ASA をポーリングしているアクティブなホストと、静的に設定されているホストのみを表示するように更新されました。

#### 例

次に、**show snmp-server host** コマンドの出力例を示します。

```
ciscoasa
#
show snmp-server host
host ip = 10.10.10.1, interface = mgmt poll community ***** version 2c
host ip = 10.10.10.10, interface = mgmt poll community ***** version 2c
host ip = 10.10.10.2, interface = mgmt poll community ***** version 2c
host ip = 10.10.10.3, interface = mgmt poll community ***** version 2c
host ip = 10.10.10.4, interface = mgmt poll community ***** version 2c
host ip = 10.10.10.5, interface = mgmt poll community ***** version 2c
host ip = 10.10.10.6, interface = mgmt poll community ***** version 2c
host ip = 10.10.10.7, interface = mgmt poll community ***** version 2c
host ip = 10.10.10.8, interface = mgmt poll community ***** version 2c
host ip = 10.10.10.9, interface = mgmt poll community ***** version 2c
```

次に、Version 9.4(1) 現在の **show snmp-server host** コマンドの出力例を示します。ASA をポーリングしているアクティブなホストのみが表示されます。

```
ciscoasa
#
show snmp-server host
host ip = 10.10.10.3, interface = mgmt poll community ***** version 2c
host ip = 10.10.10.6, interface = mgmt poll community ***** version 2c
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>clear configure snmp-server</b>	SNMP サーバー コンフィギュレーションをクリアします。
<b>show running-config snmp-server</b>	SNMP サーバー コンフィギュレーションを表示します。
<b>snmp-server</b>	SNMP サーバーを設定します。

## show snmp-server statistics

SNMP サーバー統計情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show snmp-server statistics** コマンドを使用します。

### show snmp-server statistics

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

#### コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスパ レント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

#### コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

7.0(1) このコマンドが追加されました。

#### 例

次に、**show snmp-server statistics** コマンドの出力例を示します。

```
ciscoasa# show snmp-server statistics
0 SNMP packets input
  0 Bad SNMP version errors
  0 Unknown community name
  0 Illegal operation for community name supplied
  0 Encoding errors
  0 Number of requested variables
  0 Number of altered variables
  0 Get-request PDUs
  0 Get-next PDUs
  0 Get-bulk PDUs
  0 Set-request PDUs (Not supported)
0 SNMP packets output
  0 Too big errors (Maximum packet size 512)
  0 No such name errors
  0 Bad values errors
  0 General errors
  0 Response PDUs
  0 Trap PDUs
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>clear configure snmp-server</b>	SNMP サーバー コンフィギュレーションをクリアします。
<b>clear snmp-server statistics</b>	SNMP パケットの入力カウンタおよび出力カウンタをクリアします。
<b>show running-config snmp-server</b>	SNMP サーバー コンフィギュレーションを表示します。
<b>snmp-server</b>	SNMP サーバーを設定します。

## show snmp-server user

設定されている SNMP ユーザーの特性に関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show snmp-server user** コマンドを使用します。

**show snmp-server user** [ *username* ]

### 構文の説明

*username* (任意) SNMP 情報を表示する特定のユーザー (複数可) を指定します。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

### コマンド履歴

リリー 変更内容  
ス

8.2(1) このコマンドが追加されました。

### 例

次に、**show snmp-server user** コマンドの出力例を示します。

```
ciscoasa
#
show snmp-server user authuser
User name: authuser
Engine ID: 00000009020000000C025808
storage-type: nonvolatile      active access-list: N/A
Rowstatus: active
Authentication Protocol: MD5
Privacy protocol: DES
Group name: VacmGroupName
```

この出力には次の情報が表示されます。

- ユーザー名。SNMP ユーザーの名前を識別する文字列です。
- エンジン ID。ASA 上の SNMP のコピーを識別する文字列です。
- ストレージタイプ。ASA の揮発性メモリまたは一時メモリに設定が格納されているか、あるいは不揮発性メモリまたは永続メモリに格納されているかを示します。

非揮発性メモリまたは永続メモリに格納されている場合、ASA をオフにして再度オンにした場合でも設定は存続します。

- アクティブなアクセスリスト。SNMP ユーザーに関連付けられている標準の IP アクセスリストです。
- Rowstatus。ユーザーがアクティブか非アクティブかを示します。
- 認証プロトコル。使用されている認証プロトコルを示します。選択できるのは、MD5、SHA、なしのいずれかです。ソフトウェアイメージで認証がサポートされていない場合、このフィールドは表示されません。
- プライバシープロトコル。DES によるパケット暗号化がイネーブルかどうかを示します。ソフトウェアイメージでプライバシーがサポートされていない場合、このフィールドは表示されません。
- グループ名。ユーザーが属している SNMP グループを示します。SNMP グループは、View-based Access Control Model (VACM) に従って定義されます。

#### 使用上のガイドライン

SNMP ユーザーは、SNMP グループの一部である必要があります。 *username* 引数が入力されなかった場合、**show snmp-server user** コマンドには設定済みのすべてのユーザーに関する情報が表示されます。 *username* 引数が入力され、そのユーザーが存在する場合は、指定したユーザーに関する情報が表示されます。

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>clear configure snmp-server</b>	SNMP サーバー コンフィギュレーションをクリアします。
<b>show running-config snmp-server</b>	SNMP サーバー コンフィギュレーションを表示します。
<b>snmp-server</b>	SNMP サーバーを設定します。

# show software authenticity development

開発キー署名イメージのロードが有効または無効になっていることを確認するには、特権EXECモードで **show software authenticity development** コマンドを使用します。

## show software authenticity development

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

### コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

9.3(2) このコマンドが追加されました。

### 例

次に、 **show software authenticity file** コマンドの出力例を示します。

```
ciscoasa(config)# show software authenticity development
Loading of development images is disabled
ciscoasa(config)#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show version</b>	ソフトウェアバージョン、ハードウェアコンフィギュレーション、ライセンスキー、および関連する稼働時間データを表示します。
<b>software authenticity key add special</b>	SPI フラッシュに新しい開発キーを追加します。
<b>software authenticity key revoke special</b>	SPI フラッシュから古い開発キーを削除します。
<b>show software authenticity keys</b>	SPI フラッシュの開発キーを表示します。
<b>show software authenticity file disk0:asa932-1fbff.SSA</b>	開発キー ファイルの内容を表示します。

コマンド	説明
<b>show software authenticity running</b>	現在実行中のファイルに関連したデジタル署名情報を表示します。
<b>show software authenticity</b>	特定のイメージファイルのソフトウェア認証に関連したデジタル署名情報を表示します。

## show software authenticity file

特定のイメージファイルのソフトウェア認証に関連したデジタル署名情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show software authenticity file** コマンドを使用します。

**show software authenticity** [ *filename* ]

### 構文の説明

*filename* (オプション) 特定のイメージファイルを指定します。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

### コマンド履歴

リリー 変更内容  
ス

9.3(2) このコマンドが追加されました。

### 例

次に、**show software authenticity file** コマンドの出力例を示します。

```
ciscoasa
#
show software authenticity file asa913.SSA
File Name           : disk0:/asa913.SSA
Image type          : Development
  Signer Information
    Common Name      : Cisco
    Organization Unit : ASA5585-X
    Organization Name : Engineering
    Certificate Serial Number : abcd1234efgh5678
    Hash Algorithm   : SHA512
    Signature Algorithm : 2048-bit RSA
    Key Version      : A
```

この出力には次の情報が表示されます。

- メモリ内のファイルの名前であるファイル名。
- 表示されるイメージのタイプであるイメージタイプ。
- 署名者情報によって、次のようなシグニチャ情報が指定されます。

- 一般名。ソフトウェア メーカーの名前です。
- 組織単位。ソフトウェア イメージが展開されるハードウェアを示します。
- 組織名。ソフトウェア イメージの所有者です。
- 証明書シリアル番号。デジタル署名の証明書シリアル番号です。
- ハッシュアルゴリズム。デジタル署名確認に使用されるハッシュアルゴリズムのタイプを示します。
- 署名アルゴリズム。デジタル署名確認に使用される署名アルゴリズムのタイプを識別します。
- キーバージョン。確認に使用されるキーバージョンを示します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show version</b>	ソフトウェア バージョン、ハードウェア コンフィギュレーション、ライセンス キー、および関連する稼働時間データを表示します。

## show software authenticity keys

SPI フラッシュに格納されている開発キーおよびリリースキーの情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show software authenticity keys** コマンドを使用します。

### show software authenticity keys

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

#### コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

#### コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

9.3(2) このコマンドが追加されました。

#### 例

次に、**show software authenticity keys** コマンドの出力例を示します。

```
ciscoasa# show software authenticity keys
Public Key #1 Information
-----
Key Type           : Development (Primary)
Public Key Algorithm : 2048-bit RSA
Modulus :
E1:61:22:18:6D:0D:A3:D8:C8:54:62:0D:8D:9A:0E:09:
05:C8:02:5C:B6:51:47:C7:23:AF:1D:1E:AC:8D:9D:0E:
DD:30:3C:50:26:F6:E8:26:F9:D7:69:D2:1E:DA:4E:24:
99:D4:A5:A6:13:68:8D:B0:53:39:02:61:64:81:70:94:
27:A3:31:A5:05:95:63:AF:EA:EB:26:AB:39:8C:31:6A:
DD:13:22:22:41:A7:3A:FC:19:80:BE:FC:13:2A:C1:39:
E0:E6:70:1B:DE:4F:69:EB:92:84:34:23:61:AE:46:53:
C4:68:4E:DE:A3:98:F6:2E:5A:B5:AC:18:05:90:37:80:
7C:3E:08:E3:03:83:91:30:11:29:E3:12:B0:26:23:AC:
0A:C0:DE:31:9D:4B:14:D8:A6:78:B8:B5:84:04:EA:C7:
FB:CF:C1:DD:16:75:82:FC:1B:5C:FF:B7:C0:36:88:E3:
3E:BE:44:82:65:2F:66:FF:25:1A:FA:2C:B2:03:17:16:
0D:C8:33:4F:13:C6:62:D8:53:FC:11:1A:9C:3C:10:EE:
09:32:FE:38:C2:A2:E2:56:E5:ED:93:89:40:46:B9:E4:
B3:9C:68:76:B0:BF:0D:FD:33:E6:F6:8C:26:D9:FF:F9:
DA:B5:D4:86:81:B4:D1:3B:5E:81:1E:20:9F:BE:6E:B7
Exponent           : 65537
```

```

Key Version          : A
Public Key #2 Information
-----
Key Type             : Release (Primary)
Public Key Algorithm : 2048-bit RSA
Modulus :
96:A2:E6:E4:51:4D:4A:B0:F0:EF:DB:41:82:A6:AC:D0:
FC:11:40:C2:F0:76:10:19:CE:D0:16:7D:26:73:B1:55:
FE:42:FE:5D:5F:4D:A5:D5:29:7F:91:EC:91:4D:9B:33:
54:4B:B8:4D:85:E9:11:2D:79:19:AA:C5:E7:2C:22:5E:
F6:66:27:98:1C:5A:84:5E:25:E7:B9:09:80:C7:CD:F4:
13:FB:32:6B:25:B5:22:DE:CD:DC:BE:65:D5:6A:99:02:
95:89:78:8D:1A:39:A3:14:C9:32:EE:02:4C:AB:25:D0:
38:AD:E4:C9:C6:6B:28:FE:93:C3:0A:FE:90:D4:22:CC:
FF:99:62:25:57:FB:A7:C6:E4:A5:B2:22:C7:35:91:F8:
BB:2A:19:42:85:8F:5E:2E:BF:A0:9D:57:94:DF:29:45:
AA:31:56:6B:7C:C4:5B:54:FE:DE:30:31:B4:FC:4E:0C:
9D:D8:16:DB:1D:3D:8A:98:6A:BB:C2:34:8B:B4:AA:D1:
53:66:FF:89:FB:C2:13:12:7D:5B:60:16:CA:D8:17:54:
7B:41:1D:31:EF:54:DB:49:40:1F:99:FB:18:38:03:EE:
2D:E8:E1:9F:E6:B2:C3:1C:55:70:F4:F3:B2:E7:4A:5A:
F5:AA:1D:03:BD:A1:C3:9F:97:80:E6:63:05:27:F2:1F

Exponent            : 65537
Key Version          : A
Public Key #3 Information
-----
Key Type             : Development (Backup)
Public Key Algorithm : 2048-bit RSA
Modulus :
E1:61:22:18:6D:0D:A3:D8:C8:54:62:0D:8D:9A:0E:09:
05:C8:02:5C:B6:51:47:C7:23:AF:1D:1E:AC:8D:9D:0E:
DD:30:3C:50:26:F6:E8:26:F9:D7:69:D2:1E:DA:4E:24:
99:D4:A5:A6:13:68:8D:B0:53:39:02:61:64:81:70:94:
27:A3:31:A5:05:95:63:AF:EA:EB:26:AB:39:8C:31:6A:
DD:13:22:22:41:A7:3A:FC:19:80:BE:FC:13:2A:C1:39:
E0:E6:70:1B:DE:4F:69:EB:92:84:34:23:61:AE:46:53:
C4:68:4E:DE:A3:98:F6:2E:5A:B5:AC:18:05:90:37:80:
7C:3E:08:E3:03:83:91:30:11:29:E3:12:B0:26:23:AC:
0A:C0:DE:31:9D:4B:14:D8:A6:78:B8:B5:84:04:EA:C7:
FB:CF:C1:DD:16:75:82:FC:1B:5C:FF:B7:C0:36:88:E3:
3E:BE:44:82:65:2F:66:FF:25:1A:FA:2C:B2:03:17:16:
0D:C8:33:4F:13:C6:62:D8:53:FC:11:1A:9C:3C:10:EE:
09:32:FE:38:C2:A2:E2:56:E5:ED:93:89:40:46:B9:E4:
B3:9C:68:76:B0:BF:0D:FD:33:E6:F6:8C:26:D9:FF:F9:
DA:B5:D4:86:81:B4:D1:3B:5E:81:1E:20:9F:BE:6E:B7

Exponent            : 65537
Key Version          : A

```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show software authenticity file disk0:asa932-1fbff.SSA</b>	開発キー ファイルの内容を表示します。
<b>show software authenticity keys</b>	開発キーを表示します。
<b>show software authenticity running</b>	現在実行中のファイルに関連したデジタル署名情報を表示します。
<b>software authenticity key add special</b>	SPR フラッシュに新しい開発キーを追加します。

コマンド	説明
software authenticity key revoke special	SPR フラッシュから古い開発キーを削除します。

# show software authenticity running

特定のイメージファイルのソフトウェア認証に関連したデジタル署名情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show software authenticity running** コマンドを使用します。このコマンドは、現在実行中のファイルに関連したデジタル署名情報を表示することを除き、**show software authenticity file** と同じです。

## show software authenticity running

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

### コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

9.3(2) このコマンドが追加されました。

### 例

次に、**show software authenticity running** コマンドの出力例を示します。

```
ciscoasa# show software authenticity running
Image type           : Development
  Signer Information
    Common Name       : abraxas
    Organization Unit : NCS_Kenton_ASA
    Organization Name : CiscoSystems
    Certificate Serial Number : 5448091A
    Hash Algorithm    : SHA2 512
    Signature Algorithm : 2048-bit RSA
    Key Version       : A
  Verifier Information
    Verifier Name     : ROMMON
    Verifier Version  : Cisco Systems ROMMON,1.0.16
```

この出力には次の情報が表示されます。

- メモリ内のファイルの名前であるファイル名。
- 表示されるイメージのタイプであるイメージタイプ。

- 署名者情報によって、次のようなシグニチャ情報が指定されます。
- 一般名。ソフトウェア メーカーの名前です。
- 組織単位。ソフトウェア イメージが展開されるハードウェアを示します。
- 組織名。ソフトウェア イメージの所有者です。
- 証明書シリアル番号。デジタル署名の証明書シリアル番号です。
- ハッシュアルゴリズム。デジタル署名確認に使用されるハッシュアルゴリズムのタイプを示します。
- 署名アルゴリズム。デジタル署名確認に使用される署名アルゴリズムのタイプを識別します。
- キーバージョン。確認に使用されるキーバージョンを示します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show software authenticity file disk0:asa932-1fbff.SSA</b>	開発キー ファイルの内容を表示します。
<b>software authenticity key add special</b>	SPR フラッシュに新しい開発キーを追加します。
software authenticity key revoke special	SPR フラッシュから古い開発キーを削除します。

# show ssd

SSD のステータスを表示するには、**show ssd** コマンドを使用します。



(注) このコマンドは、Cisco Secure Firewall 3100 でのみサポートされています。

## show ssd

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応

## コマンド履歴

リリース	変更内容
9.17(1)	このコマンドが導入されました。

## 例

次の表示例は、SSD に関する情報を示しています。

```
> show ssd
Local Disk: 1
Name: nvme0n1
Size (MB): 858306
Operability:
operable
Presence:
equipped
Model: Micron_7300_MTFDHBE960TDF
Serial: MSA244302N0
Drive State: online
SED Support:
yes
SED State:
unlocked
SED Auth Status: ok
RAID action: none
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>raid</b>	SSD を RAID に追加または RAID から削除します。

コマンド	説明
show raid	RAID ステータスを表示します。

# show ssh sessions

ASA 上のアクティブな SSH セッションに関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show ssh sessions** コマンドを使用します。

**show ssh sessions** [ **hostname** または **A.B.C.D** ] [ **hostname** または **X:X:X:X::X** ] [ **detail** ]

## 構文の説明

**hostname** または **A.B.C.D** (オプション) 指定された SSH クライアント IPv4 アドレスのみの SSH セッション情報を表示します。

**hostname** または **X:X:X:X::X** (オプション) 指定された SSH クライアント IPv6 アドレスのみの SSH セッション情報を表示します。

**detail** SSH セッションの詳細情報を表示します。

## コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

## コマンド履歴

リリー 変更内容  
ス

7.0(1) このコマンドが追加されました。

9.1(2) **detail** オプションが追加されました。

## 使用上のガイドライン

SID は、SSH セッションを識別する一意の番号です。Client IP は、SSH クライアントを実行しているシステムの IP アドレスです。Version は、SSH クライアントがサポートしているプロトコルバージョン番号です。SSH が SSH バージョン 1 だけをサポートしている場合、Version 列には 1.5 が表示されます。SSH クライアントが SSH バージョン 1 と SSH バージョン 2 の両方をサポートしている場合、Version 列には 1.99 が表示されます。SSH クライアントが SSH バージョン 2 だけをサポートしている場合、Version 列には 2.0 が表示されます。Encryption 列には、SSH クライアントが使用している暗号化のタイプが表示されます。State 列には、クライアントと ASA が行っている通信の進行状況が表示されます。Username には、このセッションで認証されているログインユーザー名が表示されます。Mode 列には、SSH データストリームの方向が表示されます。

SSHバージョン2の場合は、同じ暗号化アルゴリズムを使用することも、異なるアルゴリズムを使用することもできます。Modeフィールドにはinおよびoutが表示されます。SSHバージョン1の場合は、いずれの方向にも同じ暗号化を使用します。Modeフィールドには該当なしを表す記号（「-」）が表示され、1つの接続に対して1つのエントリのみが表示されます。

## 例

次に、**show ssh sessions** コマンドの出力例を示します。

```
ciscoasa# show ssh sessions
SID Client IP      Version Mode Encryption Hmac      State      Username
0   172.69.39.39     1.99  IN   aes128-cbc md5      SessionStarted pat
                                OUT  aes128-cbc md5      SessionStarted pat
1   172.23.56.236   1.5   -    3DES     -        SessionStarted pat
2   172.69.39.29    1.99  IN   3des-cbc sha1    SessionStarted pat
                                OUT  3des-cbc sha1    SessionStarted pat
```

次に、**show ssh sessions detail** コマンドの出力例を示します。

```
ciscoasa# show ssh sessions detail
SSH Session ID      : 0
> Client IP         : 161.44.66.200
> Username          : root
> SSH Version       : 2.0
> State             : SessionStarted
> Inbound Statistics
> Encryption        : aes256-cbc
> HMAC              : sha1
> Bytes Received    : 2224
> Outbound Statistics
> Encryption        : aes256-cbc
> HMAC              : sha1
> Bytes Transmitted : 2856
> Rekey Information
> Time Remaining (sec) : 3297
> Data Remaining (bytes): 996145356
> Last Rekey        : 16:17:19.732 EST Wed Jan 2 2013
> Data-Based Rekeys : 0
> Time-Based Rekeys : 0
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>ssh disconnect</b>	アクティブな SSH セッションを切断します。
<b>ssh timeout</b>	アイドル状態の SSH セッションのタイムアウト値を設定します。

# show ssl

ASA 上の SSL 設定およびアクティブな SSL セッションに関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show ssl** コマンドを使用します。あ

**show ssl** [ **cache** | **ciphers** [ *level* ] | **errors** | **information** | **mib** | **objects** ]

## 構文の説明

<b>cache</b>	(オプション) SSL セッション キャッシュの統計情報を表示します。
<b>ciphers</b> [ <i>level</i> ]	(任意) <b>ssl cipher</b> コマンドを使用して設定したレベルに基づき、使用するために設定されている暗号方式を表示します。次のいずれかのレベルを指定すると、そのレベルの暗号方式のみを表示できます。レベルを指定しない場合、中間レベルの SSL、TLS、DTLS の各バージョンが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>all</b> : すべての暗号方式が含まれます。</li> <li>• <b>low</b> : NULL-SHA を除くすべての暗号が含まれます。</li> <li>• <b>medium</b> : NULL、DES、RC4 の暗号方式を除くすべての暗号方式が含まれます。</li> <li>• <b>fips</b> : すべての FIPS 準拠の暗号方式が含まれます。</li> <li>• <b>high</b> : TLSv1.2 にのみ適用され、最も強力な暗号方式のみが含まれます。</li> </ul>
<b>errors</b>	(オプション) SSL エラーを表示します。
情報	(オプション) 3DES ライセンスの有無にかかわらず、またデバイスでサポート可能なすべての暗号方式を使用して、SSL でサポートされている設定を表示します。
<b>mib</b>	(オプション) SSL MIB の統計情報を表示します。
<b>objects</b>	(オプション) SSL オブジェクトの統計情報を表示します。

## コマンド デフォルト

Show ssl information では、次のデフォルト設定が 3DES の有無にかかわらず適用されます。

- 3DES (またはそれ以上の暗号サポート) がない場合のデフォルト設定は次のとおりです。

```
ssl server-version tlsv1 dtlsv1
ssl client-version tlsv1
ssl cipher default low
ssl cipher tlsv1 low
ssl cipher tlsv1.1 low
ssl cipher tlsv1.2 low
ssl cipher dtlsv1 low
ssl cipher dtlsv1.2 low
ssl dh-group group2
```

```
ssl ecdh-group group19
ssl certificate-authentication fca-timeout 2
```

- 3DES（またはそれ以上の暗号サポート）がある場合のデフォルト設定は次のとおりです。

```
ssl server-version tlsv1 dtlsv1
ssl client-version tlsv1 dtlsv1
ssl cipher default medium
ssl cipher tlsv1 medium
ssl cipher tlsv1.1 medium
ssl cipher tlsv1.2 medium
ssl cipher dtlsv1 medium
ssl cipher dtlsv1.2 medium
ssl dh-group group2
ssl ecdh-group group19
ssl certificate-authentication fca-timeout 2
```

次の出力は、`show ssl cache` コマンドを実行した結果です。

```
SSL session cache statistics:
  Maximum cache size:      750    Current cache size:      5
  Cache hits:              0      Cache misses:           0
  Cache timeouts:         0      Cache full:             0
  Accept attempts:        5      Accepts successful:     5
  Accept renegotiates:    0
  Connect attempts:       0      Connects successful:    0
  Connect renegotiates:   0

SSL VPNLB session cache statistics:
  Maximum cache size:      10     Current cache size:      0
  Cache hits:              0      Cache misses:           0
  Cache timeouts:         0      Cache full:             0
  Accept attempts:        0      Accepts successful:     0
  Accept renegotiates:    0
  Connect attempts:       0      Connects successful:    0
  Connect renegotiates:   0

DTLS session cache statistics:
  Maximum cache size:      750    Current cache size:      1
  Cache hits:              1      Cache misses:           0
  Cache timeouts:         0      Cache full:             0
  Accept attempts:        2      Accepts successful:     1
  Accept renegotiates:    0
  Connect attempts:       0      Connects successful:    0
  Connect renegotiates:   0
```

## コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

## コマンド履歴

リリース	変更内容
9.16(1)	<code>show ssl cache</code> コマンドの出力が更新され、SSLDEV セッションキャッシュ統計情報が削除されました。
9.12(1)	<code>Show ssl cipher all</code> コマンドが削除されて廃止され、 <code>show ssl cipher information</code> コマンドが追加されました。
9.3(2)	TLSv1.1 および TLSv1.2 のサポートが追加されました。 <b>ciphers</b> キーワードが追加されました。
9.1(2)	<b>detail</b> オプションが追加されました。
9.0(1)	マルチ コンテキスト モードのサポートが追加されました。
8.4(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、現在の SSLv2 および SSLv3 セッションに関する情報を表示します。情報には、イネーブルにされた暗号の順序、ディセーブルにされた暗号、使用されている SSL トラストポイント、証明書認証がイネーブルかどうか、などが含まれます。

## 例

次に、**show ssl** コマンドの出力例を示します。

```
ciscoasa# show ssl
Accept connections using SSLv2 or greater and negotiate to TLSv1.2 or greater
Start connections using SSLv3 and negotiate to SSLv3 or greater
SSL DH Group: group2
SSL trust-points:
  Self-signed RSA certificate available
  Default: certsha256
  Interface inside: certsha256
Certificate authentication is not enabled
```

次に、**show ssl ciphers fips** コマンドの出力例を示します。

```
ciscoasa# show ssl ciphers fips

ECDHE-ECDSA-AES256-GCM-SHA384 (tls1.2)
ECDHE-RSA-AES256-GCM-SHA384 (tls1.2)
DHE-RSA-AES256-GCM-SHA384 (tls1.2)
AES256-GCM-SHA384 (tls1.2)
ECDHE-ECDSA-AES256-SHA384 (tls1.2)
ECDHE-RSA-AES256-SHA384 (tls1.2)
DHE-RSA-AES256-SHA256 (tls1.2)
AES256-SHA256 (tls1.2)
ECDHE-ECDSA-AES128-GCM-SHA256 (tls1.2)
ECDHE-RSA-AES128-GCM-SHA256 (tls1.2)
DHE-RSA-AES128-GCM-SHA256 (tls1.2)
AES128-GCM-SHA256 (tls1.2)
ECDHE-ECDSA-AES128-SHA256 (tls1.2)
ECDHE-RSA-AES128-SHA256 (tls1.2)
DHE-RSA-AES128-SHA256 (tls1.2)
AES128-SHA256 (tls1.2)
```

```
DHE-RSA-AES256-SHA (tlsv1, tlsv1.1, dtls1, tlsv1.2)
AES256-SHA (tlsv1, tlsv1.1, dtls1, tlsv1.2)
DHE-RSA-AES128-SHA (tlsv1, tlsv1.1, dtls1, tlsv1.2)
AES128-SHA (tlsv1, tlsv1.1, dtls1, tlsv1.2)
```

次に、**show ssl ciphers** コマンドの出力を示します。

```
ciscoasa# show ssl ciphers all
```

These are the ciphers for the given cipher level; not all ciphers are supported by all versions of SSL/TLS.

These names can be used to create a custom cipher list

```
ECDHE-ECDSA-AES256-GCM-SHA384 (tlsv1.2)
ECDHE-RSA-AES256-GCM-SHA384 (tlsv1.2)
DHE-RSA-AES256-GCM-SHA384 (tlsv1.2)
AES256-GCM-SHA384 (tlsv1.2)
ECDHE-ECDSA-AES256-SHA384 (tlsv1.2)
ECDHE-RSA-AES256-SHA384 (tlsv1.2)
DHE-RSA-AES256-SHA256 (tlsv1.2)
AES256-SHA256 (tlsv1.2)
ECDHE-ECDSA-AES128-GCM-SHA256 (tlsv1.2)
ECDHE-RSA-AES128-GCM-SHA256 (tlsv1.2)
DHE-RSA-AES128-GCM-SHA256 (tlsv1.2)
AES128-GCM-SHA256 (tlsv1.2)
ECDHE-ECDSA-AES128-SHA256 (tlsv1.2)
ECDHE-RSA-AES128-SHA256 (tlsv1.2)
DHE-RSA-AES128-SHA256 (tlsv1.2)
AES128-SHA256 (tlsv1.2)
DHE-RSA-AES256-SHA (tlsv1, tlsv1.1, dtls1, tlsv1.2)
AES256-SHA (tlsv1, tlsv1.1, dtls1, tlsv1.2)
DHE-RSA-AES128-SHA (tlsv1, tlsv1.1, dtls1, tlsv1.2)
AES128-SHA (tlsv1, tlsv1.1, dtls1, tlsv1.2)
DES-CBC3-SHA (tlsv1, tlsv1.1, dtls1, tlsv1.2)
RC4-SHA (tlsv1)
RC4-MD5 (tlsv1)
DES-CBC-SHA (tlsv1)
NULL-SHA (tlsv1)
asa3(config-tlsp)# show ssl ciphers medium
ECDHE-ECDSA-AES256-GCM-SHA384 (tlsv1.2)
ECDHE-RSA-AES256-GCM-SHA384 (tlsv1.2)
DHE-RSA-AES256-GCM-SHA384 (tlsv1.2)
AES256-GCM-SHA384 (tlsv1.2)
ECDHE-ECDSA-AES256-SHA384 (tlsv1.2)
ECDHE-RSA-AES256-SHA384 (tlsv1.2)
DHE-RSA-AES256-SHA256 (tlsv1.2)
AES256-SHA256 (tlsv1.2)
ECDHE-ECDSA-AES128-GCM-SHA256 (tlsv1.2)
ECDHE-RSA-AES128-GCM-SHA256 (tlsv1.2)
DHE-RSA-AES128-GCM-SHA256 (tlsv1.2)
AES128-GCM-SHA256 (tlsv1.2)
ECDHE-ECDSA-AES128-SHA256 (tlsv1.2)
ECDHE-RSA-AES128-SHA256 (tlsv1.2)
DHE-RSA-AES128-SHA256 (tlsv1.2)
AES128-SHA256 (tlsv1.2)
DHE-RSA-AES256-SHA (tlsv1, tlsv1.1, dtls1, tlsv1.2)
AES256-SHA (tlsv1, tlsv1.1, dtls1, tlsv1.2)
DHE-RSA-AES128-SHA (tlsv1, tlsv1.1, dtls1, tlsv1.2)
AES128-SHA (tlsv1, tlsv1.1, dtls1, tlsv1.2)
asa3(config-tlsp)# show ssl ciphers fips
ECDHE-ECDSA-AES256-GCM-SHA384 (tlsv1.2)
ECDHE-RSA-AES256-GCM-SHA384 (tlsv1.2)
DHE-RSA-AES256-GCM-SHA384 (tlsv1.2)
AES256-GCM-SHA384 (tlsv1.2)
```

```

ECDHE-ECDSA-AES256-SHA384 (tls1.2)
ECDHE-RSA-AES256-SHA384 (tls1.2)
DHE-RSA-AES256-SHA256 (tls1.2)
AES256-SHA256 (tls1.2)
ECDHE-ECDSA-AES128-GCM-SHA256 (tls1.2)
ECDHE-RSA-AES128-GCM-SHA256 (tls1.2)
DHE-RSA-AES128-GCM-SHA256 (tls1.2)
AES128-GCM-SHA256 (tls1.2)
ECDHE-ECDSA-AES128-SHA256 (tls1.2)
ECDHE-RSA-AES128-SHA256 (tls1.2)
DHE-RSA-AES128-SHA256 (tls1.2)
AES128-SHA256 (tls1.2)
DHE-RSA-AES256-SHA (tls1, tls1.1, dtls1, tls1.2)
AES256-SHA (tls1, tls1.1, dtls1, tls1.2)
DHE-RSA-AES128-SHA (tls1, tls1.1, dtls1, tls1.2)
AES128-SHA (tls1, tls1.1, dtls1, tls1.2)
asa3(config-tlsp)# show ssl ciphers
Current cipher configuration:
default (medium):
  ECDHE-ECDSA-AES256-GCM-SHA384
  ECDHE-RSA-AES256-GCM-SHA384
  DHE-RSA-AES256-GCM-SHA384
  AES256-GCM-SHA384
  ECDHE-ECDSA-AES256-SHA384
  ECDHE-RSA-AES256-SHA384
  DHE-RSA-AES256-SHA256
  AES256-SHA256
  ECDHE-ECDSA-AES128-GCM-SHA256
  ECDHE-RSA-AES128-GCM-SHA256
  DHE-RSA-AES128-GCM-SHA256
  AES128-GCM-SHA256
  ECDHE-ECDSA-AES128-SHA256
  ECDHE-RSA-AES128-SHA256
  DHE-RSA-AES128-SHA256
  AES128-SHA256
  DHE-RSA-AES256-SHA
  AES256-SHA
  DHE-RSA-AES128-SHA
  AES128-SHA
tls1 (medium):
  DHE-RSA-AES256-SHA
  AES256-SHA
  DHE-RSA-AES128-SHA
  AES128-SHA
tls1.1 (medium):
  DHE-RSA-AES256-SHA
  AES256-SHA
  DHE-RSA-AES128-SHA
  AES128-SHA
tls1.2 (medium):
  ECDHE-ECDSA-AES256-GCM-SHA384
  ECDHE-RSA-AES256-GCM-SHA384
  DHE-RSA-AES256-GCM-SHA384
  AES256-GCM-SHA384
  ECDHE-ECDSA-AES256-SHA384
  ECDHE-RSA-AES256-SHA384
  DHE-RSA-AES256-SHA256
  AES256-SHA256
  ECDHE-ECDSA-AES128-GCM-SHA256
  ECDHE-RSA-AES128-GCM-SHA256
  DHE-RSA-AES128-GCM-SHA256
  AES128-GCM-SHA256
  ECDHE-ECDSA-AES128-SHA256
  ECDHE-RSA-AES128-SHA256

```

```

DHE-RSA-AES128-SHA256
AES128-SHA256
DHE-RSA-AES256-SHA
AES256-SHA
DHE-RSA-AES128-SHA
AES128-SHA
dtlsrv1 (medium) :
DHE-RSA-AES256-SHA
AES256-SHA
DHE-RSA-AES128-SHA
AES128-SHA

```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>license-server port</b>	サーバーが参加者からの SSL 接続をリッスンするポートを設定します。
ssl ciphers	SSL、DTLS、および TLS プロトコルの暗号化アルゴリズムを指定します。

## show startup-config

スタートアップコンフィギュレーションを表示したり、スタートアップコンフィギュレーションがロードされたときのエラーを表示したりするには、特権 EXEC モードで **show startup-config** コマンドを使用します。

### show startup-config [ errors ]

#### 構文の説明

**errors** (任意) ASA がスタートアップ コンフィギュレーションをロードしたときに生成されたエラーを表示します。

#### コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

#### コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム <sup>1</sup>
特権 EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応

<sup>1</sup>errors キーワードは、シングルモードおよびシステム実行スペースでだけ使用できます。

#### コマンド履歴

リリース 変更内容

7.0(1) **errors** キーワードが追加されました。

8.3(1) 暗号化されたパスワードが出力に追加されました。

#### 使用上のガイドライン

マルチコンテキストモードでは、**show startup-config** コマンドを実行すると、現在の実行スペース（システム設定またはセキュリティコンテキスト）のスタートアップ設定が表示されます。

**show startup-config** コマンドの出力では、パスワードの暗号化が有効か無効かに応じて、パスワードが暗号化、マスク、またはクリアテキストの状態が表示されます。

スタートアップエラーをメモリからクリアするには、**clear startup-config errors** コマンドを使用します。

#### 例

次に、**show startup-config** コマンドの出力例を示します。

```
ciscoasa# show startup-config
: Saved
: Written by enable_15 at 01:44:55.598 UTC Thu Apr 17 2003
Version 7.X(X)
```

```

!
interface GigabitEthernet0/0
 nameif inside
 security-level 100
 ip address 209.165.200.224
 webvpn enable
!
interface GigabitEthernet0/1
 shutdown
 nameif test
 security-level 0
 ip address 209.165.200.225
!
...
!
enable password 8Ry2YjIyt7RRXU24 encrypted
passwd 2KFQnbNIdI.2KYOU encrypted
hostname firewall1
domain-name example.com
boot system disk0:/cdisk.bin
ftp mode passive
names
name 10.10.4.200 outside
access-list xyz extended permit ip host 192.168.0.4 host 209.165.200.226
!
ftp-map ftp_map
!
ftp-map inbound_ftp
 deny-request-cmd appe stor stou
!
...
Cryptochecksum:4edf97923899e712ed0da8c338e07e63

```

次に、**show startup-config errors** コマンドの出力例を示します。

```

ciscoasa# show startup-config errors
ERROR: 'Mac-addresses': invalid resource name
*** Output from config line 18, "limit-resource Mac-add..."
INFO: Admin context is required to get the interfaces
*** Output from config line 30, "arp timeout 14400"
Creating context 'admin'... WARNING: Invoked the stub function ibm_4gs3_context_
set_max_mgmt_sess
WARNING: Invoked the stub function ibm_4gs3_context_set_max_mgmt_sess
Done. (1)
*** Output from config line 33, "admin-context admin"
WARNING: VLAN *24* is not configured.
*** Output from config line 12, context 'admin', "nameif inside"
.....
*** Output from config line 37, "config-url disk:/admin..."

```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>clear startup-config errors</b>	スタートアップエラーをメモリからクリアします。
<b>show running-config</b>	実行コンフィギュレーションを表示します。

## show sunrpc-server active

Sun RPC サービス用に開いているピンホールを表示するには、特権 EXEC モードで **show sunrpc-server active** コマンドを使用します。

### show sunrpc-server active

**コマンド デフォルト** デフォルトの動作や値はありません。

**コマンド モード** 次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

**コマンド履歴** リリー 変更内容  
ス

7.0(1) このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **show sunrpc-server active** コマンドは、NFS や NIS などの Sun RPC サービス用に開いているピンホールを表示するために使用します。

### 例

Sun RPC サービスで開かれているピンホールを表示するには、**show sunrpc-server active** コマンドを入力します。次に、**show sunrpc-server active** コマンドの出力例を示します。

```
ciscoasa# show sunrpc-server active
          LOCAL          FOREIGN          SERVICE TIMEOUT
-----
192.168.100.2/0 209.165.200.5/32780 100005 00:10:00
```

LOCAL カラムのエントリは、内部インターフェイスのクライアントまたはサーバーの IP アドレスを示します。FOREIGN カラムの値は、外部インターフェイスのクライアントまたはサーバーの IP アドレスを示します。

### 関連コマンド

コマンド	説明
clear configure sunrpc-server	ASA からの Sun リモート プロセッサ コール サービスをクリアします。

コマンド	説明
clear sunrpc-server active	NFS や NIS などの Sun RPC サービス用に開いているピンホールをクリアします。
inspect sunrpc	SunRPC アプリケーションインスペクションをイネーブルまたはディセーブルにし、使用されるポートを設定します。
show running-config sunrpc-server	SunRPC サービス コンフィギュレーションに関する情報を表示します。

# show switch mac-address-table

スイッチの MAC アドレステーブルを表示するには、特権 EXEC モードで **show switch mac-address-table** コマンドを使用します。

## show switch mac-address-table



(注) Firepower 1010 および ASA 5505 でのみサポートされています。

**構文の説明** このコマンドには引数またはキーワードはありません。

**コマンドデフォルト** デフォルトの動作や値はありません。

**コマンドモード** 次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	—	—

**コマンド履歴** リリース 変更内容  
ス

7.2(1) このコマンドが追加されました。

9.13(1) Firepower 1010 のサポートが追加されました。

**使用上のガイドライン** スイッチ MAC アドレス テーブルには、スイッチ ハードウェア内の各 VLAN のトラフィックに適用する MAC アドレスとスイッチ ポートのマッピングが保持されます。トランスペアレントファイアウォールモードでは、**show mac-address-table** コマンドを使用して ASA ソフトウェア内のブリッジ MAC アドレステーブルを表示します。このブリッジ MAC アドレス テーブルには、VLAN 間を通過するトラフィックに適用する MAC アドレスと VLAN インターフェイスのマッピングが保持されます。

MAC アドレス エントリは 5 分経過するとエージングアウトします。

例

次に、**show switch mac-address-table** コマンドの出力例を示します。

```
ciscoasa# show switch mac-address-table
Legend: Age - entry expiration time in seconds
      Mac Address | VLAN | Type | Age | Port
```

```

-----
000e.0c4e.2aa4 | 0001 | dynamic | 287 | Et0/0
0012.d927.fb03 | 0001 | dynamic | 287 | Et0/0
0013.c4ca.8a8c | 0001 | dynamic | 287 | Et0/0
00b0.6486.0c14 | 0001 | dynamic | 287 | Et0/0
00d0.2bff.449f | 0001 | static | - | In0/1
0100.5e00.000d | 0001 | static multicast | - | In0/1,Et0/0-7
Total Entries: 6

```

表 12-4 に、各フィールドの説明を示します。

表 4 : *show switch mac-address-table* のフィールド

フィールド	説明
Mac Address	MAC アドレスを表示します。
VLAN	MAC アドレスに関連付けられている VLAN を表示します。
タイプ	MAC アドレスを、ダイナミックに学習するか、スタティックマルチキャストアドレスとして学習するか、またはスタティックに学習するかを示します。スタティック エントリは、内部バックプレーン インターフェイスの場合にのみ該当します。
Age	MAC アドレス テーブル内にあるダイナミック エントリの経過時間を表示します。
Port	この MAC アドレスのホストに到達できるスイッチ ポートを表示します。

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show mac-address-table</b>	組み込みスイッチのないモデルの MAC アドレス テーブルを表示します。
<b>show switch vlan</b>	VLAN と物理 MAC アドレスの関連付けを表示します。

# show switch vlan

VLAN および関連するスイッチポートを表示するには、特権 EXEC モードで **show switch vlan** コマンドを使用します。

## show switch vlan



(注) Firepower 1010 および ASA 5505 でのみサポートされています。

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	—	—

### コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

7.2(1) このコマンドが追加されました。

9.13(1) Firepower 1010 のサポートが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、組み込みスイッチを持つモデル専用です。他のモデルの場合は、**show vlan** コマンドを使用します。

### 例

次に、**show switch vlan** コマンドの出力例を示します。

```
ciscoasa# show switch vlan
VLAN Name                               Status    Ports
-----
100  inside                               up       Et0/0, Et0/1
200  outside                              up       Et0/7
300  -                                       down    Et0/1, Et0/2
400  backup                               down    Et0/3
```

表 12-4 に、各フィールドの説明を示します。

表 5: *show switch vlan* のフィールド

フィールド	説明
VLAN	VLAN 番号を表示します。
名前	VLAN インターフェイスの名前を表示します。 <b>nameif</b> コマンドを使用して名前が設定されていない場合、または <b>interface vlan</b> コマンドが実行されていない場合は、ダッシュ (-) が表示されます。
Status (ステータス)	スイッチ内の VLAN とトラフィックを送受信するためのステータス (up または down) を表示します。VLAN がアップ状態になるには、その VLAN で少なくとも 1 つのスイッチポートがアップ状態である必要があります。
ポート	各 VLAN に割り当てられたスイッチポートを表示します。1 つのスイッチポートが複数の VLAN にリストされている場合、そのポートはトランクポートです。上記の出力例で、Ethernet 0/1 は VLAN 100 および VLAN 300 を伝送するトランクポートです。

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>clear interface</b>	<b>show interface</b> コマンドのカウンタをクリアします。
<b>interface vlan</b>	VLAN インターフェイスを作成し、インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。
<b>show interface</b>	インターフェイスの実行時ステータスと統計情報を表示します。
<b>show vlan</b>	組み込みスイッチのないモデルの VLAN を表示します。
<b>switchport mode</b>	スイッチポートのモードをアクセスモードまたはトランクモードに設定します。

## show sw-reset-button

ASA 5506-X、5508-X、または5516-Xのソフトウェアリセットボタンが有効になっているかどうかを表示するには、特権 EXEC モードで **show sw-reset-button** コマンドを使用します。

### show sw-reset-button

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンドデフォルト

ソフトウェア リセット ボタンはデフォルトで有効になっています。

#### コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	—	• 対応

#### コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

9.3(2) コマンドが追加されました。

#### 使用上のガイドライン

**service sw-reset-button** コマンドを使用して、ソフトウェアリセットボタンを有効または無効にします。リセットボタンは背面パネルにある小さな埋め込み型のボタンです。約3秒以上押すと ASA がリセットされ、次のレポート後に「出荷時」のデフォルト状態に戻ります。設定変数が工場出荷時デフォルトにリセットされます。ただし、フラッシュは削除されないため、ファイルは削除されません。

#### 例

次に、ソフトウェア リセット ボタンをイネーブルにする例を示します。

```
ciscoasa(config)# service sw-reset-button
ciscoasa(config)# show sw-reset-button
Software Reset Button is configured.
```

次に、ソフトウェア リセット ボタンを無効にする例を示します。

```
ciscoasa(config)# no service sw-reset-button
ciscoasa(config)# show sw-reset-button
Software Reset Button is not configured.
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>service sw-reset-button</b>	ソフトウェアリセットボタンをイネーブ爾またはディセーブ爾にします。

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。